

演目及び出演者

《第1部》

1. 湛水流齊唱「作田節・早作田節」

[歌・三線]

上里平三	渡久山春憲	國吉清昂	松田邦昭	山城明雄	比嘉田徳	次昭
長嶺三生	宮洲啓介	宮城康弘	玉城秀彦	仲伊康幸	内堀大	守加奈
友寄恵美子	小山啓子	久手堅弘子	浜秀智	佐佐幸達	内山也	盛貴
小畠香代恵	山崎麻里緒	謝敷アンヘル	平船智佳	仲村渠達		

(順不同)

[箏]

野里葉子	宮城泰子	宮城裕子	渡久山美智子	米須好子	具志堅孝子
高江洲初子	高江洲順子	神谷淳子	仲村渠道子	牧港和子	宮城敬子

(順不同)

[笛]

仲田治巳 比嘉清

「作田節」

歌詞 九重のうちに 蕉で露待ちゆす、 うれしごと菊の 花どやゆる。
ククヌキヌウチニ チブディチユマチュシ、 ウリシグトゥ キクヌ ハナドウ ヤユル。

「早作田節(下出)」

歌詞 深山鶯の 節や知らぬども、 梅の匂いしちど 春や知ゆる。
ミヤマウグイヌシ シチヤシラニドゥム、 ウミヌ ニライシチドゥ ハルヤシユル。

2. 王府おもろ「あおりやへが節・しよりえと節」

[謡]

安仁屋眞昭	大城康彦	与儀清春	与那嶺政則	浜川通	兼城雅彦
山城勝彦	桃原賢治	宮城憲治	山内盛貴	(順不同)	

3. 湛水流舞踊「暁」

啓扇本流船之会 船越節子研究所

[踊り手] [歌・三線]

船越かおる 上里平三 仲里康雄 宮洲啓介 仲村渠達也

[箏] [笛] [胡弓]

宮城敬子 仲里治巳 比嘉清

「暁節」

歌詞 惜しむ夜や更けて 明雲も立ちゆり、 にやまたいつ様で 百氣のびゅが。
ヲウシムユヤ フキティ アキグムン タチユキ、 ニヤマタ イチヲウガディ ムムチスビュガ。

「揚作田節(揚出)」

歌詞 朝ま夕ま通て 見る自由のなれば、 見ぼしゃうらきらしゃ のよでしゃべが。
アサマユマ カユティ ミルジユヌ ナリバ、 ミブシャ ウラキラシャ スユディ シャビガ。

4. 虎頭山節 [齊唱]

[箏]

野里葉子	宮城泰子	宮城裕子	渡久山美智子	米須好子	高江洲初子
高江洲順子	牧港和子	宮城敬子	比嘉玲子	(順不同)	

[三線]

友寄恵美子	小山啓子	久手堅弘子	宮里信子	大田守昭	仲村渠達也
吉浜秀彦	山内盛貴	(順不同)			

[笛] [胡弓]
仲田治巳 比嘉清

「虎頭山節」

歌詞 1. 虎頭山の松の葉に 数かきて願やびら
うかきぶせみしより 首里天加那志
囃子 三ヶ山に千代や引かす
2. 国頭山から出ぢたる お材木の木や
引下るちうちよてい 那霸の港んかい
3. 北風の吹かばどうんせ 北風の吹かば
船は引下るち 綱は数じゆり

5. クエーナ 「あがりゆう・ダンジュ嘉例吉」

玉城弥生 嘉数明美 宮城美佐枝 玉城幸子 井上真喜 新垣光子
仲田かよ子 新垣裕子 原永真紀子 新城園子 山内瑛美香 (順不同)

休憩 (10分)

《第2部》

6. 御座楽 「太平歌・萬年歓・田園春色・紗窗外」

[鼓]	[排簫]	[笛]	[三線]	[楊琴]
喜屋武卓八	新崎盛隆	福地好美	大城徹雄	中村優希
[箏]	[両班]	[胡弓]	[二胡]	[新心]
中本きよみ	平良栄子	祖慶良規	神谷義則	阿波連本紀
[中三味線]	[阮]	[奏琴]	[三線]	[月琴]
金城和郎	渡久地一	砂川智規	儀武千夏	池城優美子

(順不同)

7. 湛水流舞踊 「首里」

踊り 阿波連本流啓扇本流文幸の会 金城文子研究所

[踊り手] [歌・三線]
宮城めり子 渡久山春憲 吉浜秀彦 大田守昭 謝敷アンヘル
[箏]
渡久山美智子

「首里節」

歌詞 ませこまでをれば ここてるさあもの、 押す風とつれて 忍で入らな。
マシクマティ ヲウリバ ククテルサ アムヌ、 ウスカジトゥ ツイリティ シスディイラナ。

「本赤田花風節」

歌詞 花と露の縁 あたらませ我身の、 夜々毎にお側 添やい居らまい。
ナハトゥ ツイユスキン アタラマセ ワミヌ、 ヤヤグトゥニウスバ スヤイ ヲウラメ。

8. 湛水流齊唱 「チャンナ節」

[歌・三線]
上里平三 渡久山春憲 國吉清 昂 松田邦昭 山城明比嘉徳研次治
長嶺三生 宮洲啓介 宮城康明 大底秀吉 昭吉城秀嘉元山
野村香司 仲里康雄 大田守昭 具志堅全勝 友寄秀惠美子
久手堅弘子 宮里信子 野甫一郎 吉浜秀彦 (順不同)

[箏]
野里葉子 宮城泰子 宮城裕子 玉城弥生 渡久山美智子 高江洲初玲子
高江洲順子 神谷淳子 仲村渠道子 牧港和子 宮城敬子 比嘉玲子
(順不同)

[笛] [胡弓]
仲田治巳 比嘉清

「チャンナ節」

歌詞 上下の綾門 関の戸もささぬ、 治まとる御代の しるしさらめ。
カミシムヌアヤジョウ シチヌトウン ササン、 ヲウサマトウル ミユヌ シルシ サラミ。

9. 山内盛彬の世界

①「ひやみかち節」

[歌・三線]

上里平	三生	渡久山	春宮	憲啓	吉城	清大	昂田	松邦	田底	邦秀	昭吉	山玉	城城	明秀	治嘉	比元	徳研	次治	
長嶺	三	洲	里	雄	守	昭郎	具志堅	吉	全	秀彦	勝彦	友	寄仲村渠	惠達	美子也	小山	元山	啓盛	子貴
野村香	司	仲	康	大	田	一	浜	浜											
久手堅弘	子	宮	信	野	甫														

(順不同)

[箏]

本手	野里葉子	宮城泰子	宮城裕子	渡久山美智子	米牧須港好和	具志堅孝敬	子
	高江洲初子	高江洲順子	神谷淳子	仲村渠道子	牧港好和子	宮城孝敬子	

(順不同)

[笛]

仲田治巳 比嘉 清

「ひやみかち節」

歌詞 七転び転で ひやみかち起て、 わした此の沖縄 世界に知らさ。
ナナクルビ クルディ ヒヤミカチ ウキティ、 ワシタ クヌウチナー シケニ シラサ。

花や咲き美らさ 楽や鳴る美らさ、 聴かさなや世界に 楽の手並み。
ハナヤサチジュラサ ガクヤ ナイジュラサ、 チカサナヤシケニ ガクヌティナミ。

我や虎でもの 羽つけて給ばれ、 波路パシフィク 渡てみやびら。
ワンヤ トゥラデムヌ ハニツイキティ タボリ、 ナミジ パシフィーク ワタティ ミヤビラ。

②「三山」(楽器名:さんやま)

《三山、憧れのアルゼンチン》

[三線]

山内盛貴

③「瓦屋四重奏」

《ながらた節、瓦屋節、しやうんがない節》

[歌・三線]

本手	渡久山 春憲	宮城 康明	[箏]	本手	宮城 泰子	宮城 裕子
	大底 秀吉					

替手

謝敷 アンヘル	宮洲 啓介	[箏]	野里葉子
---------	-------	-----	------

替手低音

大田 守昭	山内盛貴	[箏]	十七弦
-------	------	-----	-----

[笛]

仲田治己 比嘉 清

「ながらた節」

歌詞 できやよ押し連れて 眺めやり遊ば、 今日や名に立ちゆる 十五夜でもの。
ディチャヨウシツイリティ ナガミヤイアスィバ、 キュヤナニタチユル ジュウグヤデムヌ。

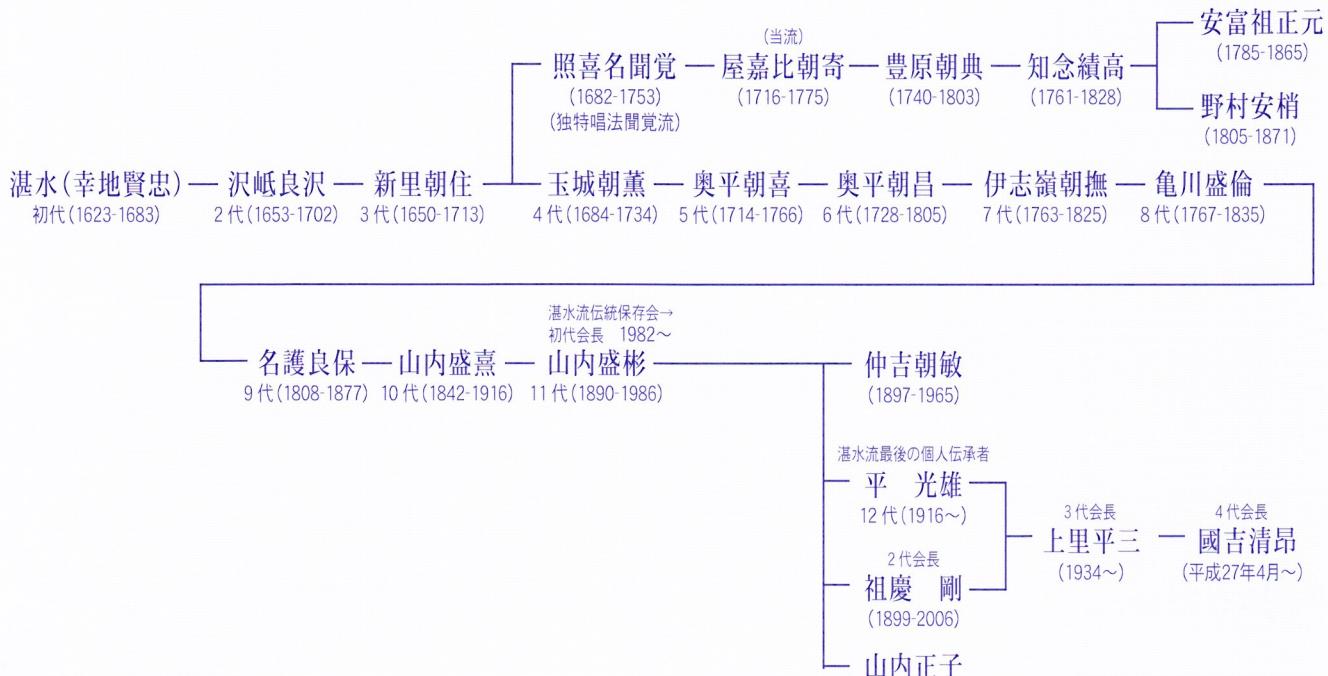
「瓦屋節」

おす風も今日や 心あてさらめ、 雲晴れて照らす 月の清さ。
オスカジンキユヤ ククルアティサラミ、 クムハリティティラス ツイチヌデュラサ。

「しやうんがない節」

月も眺めたり できやよ立ち戻ら、 里や我が宿に 待ちゆらだいもの。
ツイチヌナガミタイ ディチャヨタチムドウニ サトウヤワガヤドウニ マチュラ デムヌ。

湛水流系譜



今、甦る「琉球古典音楽の姿!」限定版!



師範 國吉 清昂

國吉清昂著 | 湛水流伝統保存会会長
湛水流伝統保存会師範
野村流伝統音楽協会師範

♪聲楽譜附「屋嘉比朝寄工工四上・下」(上下各 4,000 円)
1700 年代の組踊が出来た頃の譜に旋律譜を付け今に歌う

♪聲楽譜附「俗風工工四」(3,000 円)
明治初期の川平朝彬編著の俗風工工四に旋律譜を付け今に歌う

連絡先 西原町字小波津233-29 小波津団地A-33
TEL・FAX 098 (945) 1529

第30回 湛水流伝統保存会定期演奏会スタッフ

実行委員長	國吉清昂	アナウンス	外間早苗
舞台監督	渡久山春憲	補助員	琉湛会
調弦三線・箏	國吉啓介	音響・照明	ホール関係者
	謝敷 アンヘル	写真	比嘉徳次
進	行久高将寛	公演事務局	渡久山春憲 渡久山美智子 比嘉徳次 大田守昭



ごあいさつ

湛水流伝統保存会
会長 國吉 清昂

本日は湛水流伝統保存会 第30回定期演奏会《山内盛彬顕彰》へ足をお運び下さりありがとうございます。

湛水流は、湛水親方幸地賢忠（1623～1683）を祖とし、玉城朝薰代には全盛期を迎えた。その後300年余衰退期があった。琉球王朝最後の尚泰王の命により、その時唯一の伝承者であった名護良保に山内盛熹外4名が師事し、松村真信が工工四を編纂し、これを欽定工工四として献上した。

湛水流伝統保存会は、名護良保から山内盛熹、そして孫の山内盛彬に奏唱法を伝授、明治44年8月25日に伝授披露会を開催している。

後に世界の琉球音楽として広く発展の足がかりを築き上げた山内盛彬が、大正3年7月に声楽譜を採譜（洋楽譜にも並記）、本会はその時の楽譜を使用し研究研鑽を続けている団体です。山内盛熹の指導により、盛彬は松村真信が書き漏らしたものを見出し、『ナゴ』としてあるが、いわゆる『ナゴ手』（名護良保の伝えた手）として当会では受け継いでいます。

湛水流の特徴は、居し持ちの変化が多く、突コツとして、当流の円滑唱法に対して突コツ唱法と言われている。又、古楽の滌刺とした生氣ある楽曲として古来の民族性をよく表しているといわれています。

山内盛彬は世界を行脚しながら民族音楽研究に生涯を捧げたが、帰郷後、湛水流の行く末を案じ、昭和57年に自ら初代会長として祖慶剛、平良光雄を中心に湛水流伝統保存会を88歳のときに立ち上げました。

今年、盛彬が生誕127年を迎え、顕彰する意味に於いて「山内盛彬の世界」をプログラムの後半に組み入れました。どうぞ皆様、最後までごゆっくりとご鑑賞下さい。

結びとなりましたが、湛水流伝統保存会は創立30年余になり、会員数が減ってきております。湛水流は琉球古典音楽の源流であり、私たちは次世代への伝承とその発展を担う役割を自覚しております。幸いなことに少しずつ若い会員が増えてきていることは光明の兆しです。本日の公演をご拝聴の上、忌憚のないご指導とご鞭撻のほどをお願い致します。

また、後援して頂きました首里伝統芸能文化協会、首里公民館、共演していただきました各団体の皆様に感謝申し上げます。

平成30年2月吉日



湛水流伝統保存会

第30回

定期演奏会

《山内盛彬顕彰》

日時 2018年(平成30年)2月18日(日)

午後 1:30 開場 2:00 開演

場所 首里公民館一階大ホール

主催 湛水流伝統保存会

入場料 無 料

※王朝礼楽を堪能して下さい。



協力 / 啓扇本流船乃会家元 船越節子、阿波連本流啓扇文幸の会家元 金城文子、王府おもろ謡きゅる保存会 安仁屋真昭

首里クエーナ保存会 玉城弥生、生田流響きの会 山内貴祐、首里王府御座樂保存会会长 阿波連本勇

後援 / 首里伝統芸能文化協会、首里公民館

